

第13回 日本腎不全看護学会 学術集会 報告

聴こう 語ろう 腎不全と 生きること

平成22年11月13～14日、福岡国際会議場（福岡市博多区）に全国の透析施設の看護師さんが多数集まり、第13回日本腎不全看護学会が開催されました。大会長の下山節子さん（NPO法人日本看護キャリア開発センター代表）の依頼で、初めて患者会が参加しました。



▲特別講演の中島事務局長

学会に患者会が初めて参加!!

2日間で約1500人の来場があり、福腎協は、特別講演で中島事務局長が講演、大会シンポジウムには塩屋会長と柳瀬隆子さん（移植部会員）がシンポジストとして参加し、体験を語りました。

担当した部署（セルフヘルプグループ）にも多くの看護師さんが立ち寄り、福腎協製作のビデオ放映を見た方々から、送ってほしいとの問い合わせもありました。

常設展示では会報誌「ふくじんきょう」No.223と224で特集した、患者と看護師のアンケート結果を掲示したところ、新たに多くのアンケートを記入していただくことができました。

また、生野省三さん(表紙絵)や金太夫さん(移植者)の作品展も好評でした。



▲大会シンポジウムに参加する塩屋会長と柳瀬さん

患者の生の声を聞いてもらおうと企画したシンポジウムでは、9人の患者（右写真）が体験や趣味やライフワークを語り、小林移植コーディネーターはレシピエント登録のしかたを説明しました。

全国から 反響続々



▲全国の看護師の皆さんで満員の会場

セルフヘルプグループ (福腎協が担当した部署)

シンポジウム



ありのままの姿をイキイキと話す

自分が受けた福祉制度について 語った 松田さん

藤野さんは 楽しいイギリス 透析旅行を語る

セルフヘルプグループ (福腎協が担当した部署)

展示とDVD放映



▲常設展示で患者の声を伝えた



▲福腎協製作DVDも放映

▲シンポジウムには患者の生の声を聴きに看護師さんが集まり、9人9様の生きがいが披露された。